

平成29年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」

大阪市立西中学校

平成30年3月

大阪市立西中学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート及び目標別シート）

平成 29 年度 学校教育目標

すべての生徒に確かな学力と健康・体力を身につけさせるとともに、豊かな人間性や創造性を育む教育活動を推進する。

- (1) 管理職
- (2) 教務部
- (3) 生活指導部
- (4) 健康教育部
- (5) 事務・管理作業員部
- (6) 1 学年
- (7) 2 学年
- (8) 3 学年
- (9) 国語科
- (10) 社会科
- (11) 数学科
- (12) 理科
- (13) 英語科
- (14) 音楽科
- (15) 美術科
- (16) 保健体育科
- (17) 技術・家庭科
- (18) 特別支援教育委員会
- (19) 人権・道徳委員会
- (20) 給食委員会

（1）管理職

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

学力面でみると、「全国学力・学習状況調査」において、国語A・B、数学A・Bとも、全国平均を下回ってはいるが、平成24年度調査にくらべて、年度毎の教科による違いはあるものの、平成28年度には、差が約1～7Pの幅に縮まってきており、これまでの学力向上に向けた各取り組みの成果が徐々に表れてきている。

数学科や英語科を中心とした習熟度別少人数授業の実施や、「学校元気アップ地域本部」とのタイアップによる補充学習、資格講座(英検)、ビデオ教材の制作など、学力向上の取り組みを、今後もさらに充実させていく必要がある。

授業の内容の理解については、国語・数学ともに概ね7～8割の生徒が肯定的な回答をしてはいるが、教科の授業を担当している21名の教員のうち、経験10年未満の教員が半数近くの10名おり、さらに授業力や指導力の向上を図っていく必要がある。

家庭での学習については、平日1時間未満の生徒が43.5%を占めているとともに、自分で計画を立てて勉強することについては、半数を超える62.6%生徒が否定的な回答をしており、自主的な学習の習慣化・定着を図ることが大きな課題である。

また、読書に関しては、「普段まったく読書をしない」という生徒が6割強いる。「読書が好きではない」と回答した生徒が多くを占めており、読書意欲の醸成、読書習慣の形成についてはこれからの大きな課題である。

学校全体としては、落ち着いた状況で安定した教育活動が実践されており、「いじめを許さない」といった心情については、全国平均を上回っており確実に醸成されている。しかしながら、自尊感情の形成については、普段の学校生活の様子と齟齬のある結果となっており、大半の生徒が「学校で友達に会うのが楽しい」と肯定的な回答をしていること等を基盤として、あらゆる教育活動を通して、「できる喜び」や「達成感」を味わわせる必要がある。さらに、学校・家庭・地域の連携を強化し、体験的な活動を通じて豊かな感性や情操をはぐくみ、人間としてのあり方や生き方を考えることができるよう取り組みを進めていく必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 29 年度～32 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年 100%にする。
(施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)
- ② 毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。
(施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)
- ③ 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。
(施策 2 道徳心・社会性の育成)
- ④ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。
(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)
- ⑤ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。
(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の正答率 8 割以上の生徒の割合を、平成 29 年度からの 4 年間で全国平均以上にする。
(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- ② 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における数学の活用に関する問題の無解答率を平成 28 年度より 5 ポイント減少させる。
(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- ③ 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、平成 28 年度より減少させる。
(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- ④ 平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における合計得点を、平成 28 年度より 5 ポイント向上させる。
(施策 7 健康や体力における保持増進する力の育成)
- ⑤ 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を毎年、前年度より減少させ、平成 33 年度調査において 7%以下にする。
(施策 7 健康や体力における保持増進する力の育成)

2. 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- ① 今年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)
- ② 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)
- ③ 今年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)
- ④ 今年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)

学校の年度目標

- ① 平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)
- ② 平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を、前年度より減少させる。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)
- ③ 平成29年度の全国学力・学習状況調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。
(施策2 道徳心・社会性の育成)
- ④ 平成29年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を65%以上にする。
(施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)
- ⑤ 平成29年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を65%以上にする。
(施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ① 今年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。
（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ 100 となるよう標準化した得点のこと）
（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- ② 今年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 3 割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。
（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- ③ 今年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 7 割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。
（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- ④ 今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- ⑤ 今年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である立ち幅とびの平均の記録を、前年度より 2 ポイント向上させる。
（施策 7 健康や体力における保持増進する力の育成）

学校の年度目標

- ① 平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の正答率 8 割以上の生徒の割合を全国平均にする。
（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- ② 平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における数学の活用に関する問題の無解答率を平成前年度より 2 ポイント減少させる。
（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- ③ 平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、前年度より減少させる。
（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- ④ 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における合計得点を、前年度より 3 ポイント向上させる。
（施策 7 健康や体力における保持増進する力の育成）
- ⑤ 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合、平成 29 年度調査において前年度より減少させる。
（施策 7 健康や体力における保持増進する力の育成）

3. 本年度の自己評価結果の総括

○国語科においては、「全国学力・学習状況調査」の結果、A問題・B問題ともに、全国平均を下回ってはいるが、平均に近づきつつある結果であった。

また、3年生「チャレンジテスト」において大阪府平均を上回るなど、少しずつではあるが、着実な学力向上の傾向が見られる。

○数学科においては、「全国学力・学習状況調査」の結果、A問題・B問題ともに、全国平均を大きく下回る結果であった。依然として、「大阪市統一テスト」も、大阪市平均を下回る結果であった。1・2年生「チャレンジテスト」の結果についても、大阪府平均を下回っているが、平均に近づく傾向である。

○「全国学力・学習状況調査」の質問紙調査より、1日あたりの学習時間について、依然として不十分である傾向が強く、計画を立てて勉強しない生徒についても多数いて、家庭での自主的な学習の定着が継続した大きな課題である。また、日常的な読書習慣の定着率も低く、読書習慣の形成も今後の大きな課題である。

引き続き、学校元気アップ本部事業主催の放課後学習会などと連携を図り、働きかけをより一層強めていきたい。

○「全国学力・学習状況調査」の質問紙調査より、「いじめをゆるさない」といった心情については、確実に醸成されており、良好な結果を得ており、「学校の規則をしっかりと守っている」といった意識も非常に高い。

○「全国学力・学習状況調査」の国語に関する質問調査の結果から、「国語が好き。国語が大切。授業が理解できる。」と感じる生徒が高い割合でいる一方、「家庭で予習・復習・宿題をする。読書する。」と答えた生徒が極端に少ない。校内での国語科の授業における言語活動にとどまらず、他教科との連携や家庭学習・読書習慣の向上に向けた取り組みをさらに充実させていく必要がある。また、数学では、授業の中では基本事項が理解できていても、基本事項を利用して、応用、そして、発展させる力が、十分に身につけていない。習熟度別授業の方法を検討していくうえでも、応用・発展に結びつける指導を徹底する必要がある。日常的なことを数学的思考に関連づけて、思考力を高めることや、言語活動を重視し、問題文の内容を数学的に理解する力をつけていく必要がある。

○「全国体力・運動能力調査」の結果、全国平均との差が、男子は3.23ポイント、女子は0.68ポイントと下回っている。より体力向上につながるよう、授業導入時から取り組んでいく必要がある。

○ホームページのアクセス件数については、本年度も大阪市内の中学校で上位に位置しており、昨年度に引き続き、現時点（2月末日現在）で、72,000件を超えるアクセス数となっている。

今後も、継続して、保護者・地域の皆さんに学校の取り組みを数多く発信し、信頼される学校づくりに努めたい。

(2) 教務部

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

「全国学力・学習状況調査」の結果において、年度毎の教科による違いはあるものの、全国平均との差が縮まってきており、これまでの学力向上に向けた各取り組みの成果が徐々に表れてきている。しかし、記述式の解答方法の正答率が低く、苦手意識があると考えられる。学校全体として、感想文など身近な内容から段階的に文章を書く練習をしていき、苦手意識をなくしていく必要がある。放課後等の学習の取り組みとして、学校元気アップ地域本部事業による学生ボランティア等の補充学習会及び、ビデオ教材による学習会を実施するなどし、自主学習の支援をますます充実させていく必要がある。また、『学力向上プロジェクト』の取り組みとして、小テストを反復することにより、基礎学力の定着を図っていきたい。教員についても ICT の活用の習熟および教材研究を重ね、全体の指導力を向上させる必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ⑤ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ③ 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、平成 28 年度より減少させる。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>② 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 平成29年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を65%以上にする。 (施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>② 今年度の中学校チャレンジテストにおける正答率3割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 平成29年度の全国学力・学習状況調査における無回答率を平成28年度より5ポイント減少させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p>	B

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策3 地域ごとに開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 昼休みや放課後の時間に図書館を開放し、本の貸し出しをしたり、自主学習会や講習会を行い、利用しやすい雰囲気をつくっていく。 (学校図書館の活性化)</p> <p>指標 図書館の利用者が昨年度よりも増加するよう工夫していく。</p>	B
<p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 総合の時間を活用して、教科学習の補助的な運営を行い、学習時間の確保に努めていく。 (教育活動のための時間の確保)</p> <p>指標 総合の時間を活用して教科授業の活性化を図る。</p>	B
<p>取組内容③【施策6、国際社会において生き抜く力の育成】 タブレット端末などのICT機器を活用して、学びの楽しさを伝えていく。 (ICTを活用した教育の推進)</p> <p>指標 校内環境が整い次第、全教員がICTを活用した授業実践に積極的に取り組めるように進める。</p>	C

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について（達成状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケートの「学校のルールが守られている」という項目において、82%の生徒が『あてはまる・ややあてはまる』と回答している。 ○学校評価アンケートの「学校はホームページを活用し、行事や部活動などの様子を発信している」という項目において、94%の保護者が『あてはまる・ややあてはまる』と回答している。 ○チャレンジテスト3年生の3割以下の生徒の割合が22.3ポイントから22.7ポイントと少しの変化に留まった。 ○全国学力・学習状況調査における無回答率は平成28年度が5.62ポイントだったのに平成29年度は10.49ポイントと悪くなった。

【取組内容】について（成果と課題）

- ①図書館の開放は予定通り行えている。学校元気アップコーディネーターや図書館支援員の方々と協力し、掲示物を工夫するなどして、落ち着いて学習できる環境は整っている。
- ②昨年度よりも総合の時間に授業補てん等を行い、教科の学習時間は増えてきている。だが、まだまだ総合の時間が多いので、教科の学習時間数を増やしていきたい。
- ③学期ごとに ICT 研修会を行い、タブレット端末の使い方についての研修は行っている。授業で活用できるように工夫していかなければならない。

次年度への改善点**【目標設定】について（改善点と具体的方策）**

- 放課後に図書館での学習は定着してきた。今後さらに多くの生徒に利用してもらうために、図書館の利用を呼びかけ続けていきたい。
- 総合の時間に積極的に、時間割変更をして、教科の学習時間を充てていき、教科の学習時間を増やしていきたい。
- 他校の研修に参加するなどし、タブレット端末を授業で活用できるようにしていきたい。

(3) 生活指導部

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

現在、子どもたちは落ち着いて学校生活を送れており、いじめの発生も認知されていないが、早期発見と未然に防ぐための方策を講じ続ける必要がある。

多くの生徒が予鈴までに登校出来ており、大幅な時間の遅刻生徒はあまりいない。しかしながら、予鈴ギリギリもしくは予鈴遅刻をする生徒がいるのが現状であるため、全員が余裕をもって予鈴までに登校し、落ち着いて始業に取り組めるようにすることが課題である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 29 年度～32 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年 100%にする。

(施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)

- ② 毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。

(施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)

- ④ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

- ⑤ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>③ 今年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>④ 今年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を90%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>○ 平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>④ 今年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 被害調査の全ての項目において、「いいえ」の回答率を90%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p>	B

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 いじめ発生件数を前年度より減少させる。 (いじめ・問題行動に対応する制度の活用)</p> <p>指標 被害調査を毎学期実施し、全ての項目の「いいえ」の回答率を90%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 安全に登校し、落ち着いて学校生活のスタートを切れるように、予鈴遅刻を減少させる。 (登下校時の子どもの安全確保)</p> <p>指標 前年度の遅刻の割合より5ポイント減少させる。</p>	B

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について（達成状況）</p> <p>○ 年度目標の多くは達成できているが、不登校生徒の数は減らすことが出来なかった。不登校を解消した生徒や改善傾向にある生徒もいるが、新たに不登校になったり、不登校傾向になりつつある生徒もいる。</p> <p>【取組内容】について（成果と課題）</p> <p>① 長期休み明けの被害調査は毎学期実施でき、全ての項目の「いいえ」の回答率は90%以上であった。しかし、学期中にはからかい事案が数件発生していた。からかい事案を発見次第、指導をしたため、いじめにまで発展する事案はほとんどなかった。今度も早期発見早期指導を徹底していきたい。</p> <p>② 集会などで呼びかけを継続していた年度初めは減少傾向にあったが、学期が進むにつれ、予鈴遅刻の数が増加傾向にあるため、生徒会や学級代表とともに、年間を通した啓発活動で生徒に意識づけていきたい。 今年度は予鈴遅刻を減少させるために、予鈴遅刻連絡カードを新たに作成したが、登校指導に関して学年間でずれがあり、教員への徹底がいたらず、定着しなかったため、年度初めの研修でしっかりと取り組んでいきたい。</p>
次年度への改善点
<p>【目標設定】について（改善点と具体的方策）</p> <p>○ 問題行動を起こす生徒はほとんどおらず、全体としては落ち着いているが、他人との距離感がうまく図れず、学校に来づらかったり、登校はしているものの、教室に入れない生徒もいるが、今後も養護教諭やSCと連携を図っていく。 生徒が安心して登校できるためにも、今まで通りルールを守ることの大切さなどを指導しきながら、来年度からは不登校対策委員会を設置し、学校全体での生徒も安心して通える学校づくりに取り組んでいく。</p>

(4) 健康教育部

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

現在、本校の生徒は概ね健康で安全な学校生活を送っている。しかし、生徒を取り巻く社会環境が大きく変化する中、健康・安全な生活に課題を持つ生徒も少なくない。

- ① 校内の学習環境の整備・美化・ごみの減量化の徹底を図る。さらに、健康・安全に留意して社会生活を送ることに自ら取り組むことができる生徒の育成を目指して、計画的に指導する。
- ② 生涯を通じて心身ともに健康的な生活を送ることができる生徒像を目指し、現代的課題に応じた指導計画が必要である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ④ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

- ⑤ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ⑤ 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を毎年、前年度より減少させ、平成 33 年度調査において 7%以下にする。

(施策 7 健康や体力における保持増進する力の育成)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】 全市共通目標（小・中学校） ② 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 （施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）</p> <p>学校の年度目標 ○ 美化・環境整備に関心を持ち、積極的に取り組む行動力を育成する。</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 全市共通目標（小・中学校） ④ 今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 （施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p> <p>学校の年度目標 ○ 自己の健康課題を理解し、その解決に向けて行動する力を育成する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】 委員会活動の活性化を図り、校内美化・ごみの減量化・緑化推進に取り組む。 （インクルーシブ教育システムの充実と推進）</p>	A
<p>指標 美化委員会当番の活動達成率を前年度より向上させる。</p>	
<p>取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 保健指導や委員会活動を通して、健康についての基本的知識の習得を促進し、自分自身の健康に関心を持たせる。 （健康に関する現代的課題への対応）</p>	B
<p>指標 健康診断の受診率を前年度より向上させる。</p>	

<p>取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>ピアサポートやアサーショントレーニングなど自己肯定感の向上につながる手法を用い、スクールカウンセラーとも連携しながら取り組みを実施する。</p> <p style="text-align: right;">(健康に関する現代的課題への対応)</p>	A
<p>指標 年に1回以上、自己肯定感の向上をテーマとした取り組みを実施する。</p>	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について（達成状況）</p> <p>生徒の美化・環境整備への関心が高まり、健康課題への理解が深まった。</p> <p>【取組内容】について（成果と課題）</p> <p>美化・保健委員会活動が昨年度より充実した。</p>
次年度への改善点
<p>【目標設定】について（改善点と具体的方策）</p> <p>健診後の受診率は横ばいで、更なる受診勧告が必要である。 受診勧告の時期・方法について工夫する。</p>

(5) 事務・管理作業員部

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

学校全体の生徒の様子として、比較的落ち着いた状態の中で教育活動が実施されている。しかし、学校生活上での窓ガラス破損や小破損はゼロではないため、常に校内の危険個所を把握し、補修対応を行うことが必要である。また、教育環境を充実させるための教材購入にあたって、限られた予算を有効に執行するために、各教科との連携のもと、教材の選定や購入方法を検討する必要がある。

保護者からの問い合わせ内容として、学校徴収金の徴収計画、学校給食費の徴収日程、就学援助申請書類について等がある。これらはプリントにて全体に配付しているが、プリントの紛失や失念により周知ができていない場合がある。そのため、文書の配布時期や、各種書類の締切り日などを随時発信し、周知を促す必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ⑤ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の正答率 8 割以上の生徒の割合を、平成 29 年度からの 4 年間で全国平均以上にする。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 平成 29 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 65%以上にする。 (施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 今度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 65%以上にする。 (施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。(標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ 100 となるよう標準化した得点のこと) (施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 今年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。 (施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p>	B

年度目標の達成状況や取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗 状況
<p>取組内容① 【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯教育の支援】</p> <p>学校徴収金や学校給食費、就学援助申請についての文書配布時期や期限について、保護者メールと学校 HP を利用し、随時保護者に情報発信を行う。 (保護者や地域住民に開かれた学校園の運営)</p> <hr/> <p>指標 学校徴収金の予算書配付、学校給食費の口座振替日、就学援助申込期限についての周知を、保護者メールの配信と学校 HP への掲載を行う。</p>	B

<p>取組内容②【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</p> <p>施設の更新・維持管理のために破損箇所等を把握し、生徒が安心して学習に取り組める教育環境の確保に向けて、施設の補修・維持管理を行うよう対応する。</p> <p style="text-align: right;">(学校施設の老朽化への対応)</p>	B
<p>指標 年に2回(夏季休業中と年度末頃)、学校施設の破損点検を行い、補修必要箇所を調査し、優先順位をつけ補修工事を行う。</p>	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について(達成状況)</p> <p>○保護者や地域住民に開かれた学校園の運営については、保護者メールや学校HPによる情報発信を行い、学校評価アンケートで「学校は情報発信をよく行っている。」と答えた保護者の割合は70%に達し、目標を上回ることができた。</p> <p>○施設の更新・維持管理のため、破損個所の調査を行い、優先順位をつけ補修工事を行うことが出来た。計画していた教室の床補修工事と、突発的に発生した校舎接続部分の漏水工事などを行った。その他小破損は、管理作業員部で補修工事を随時行った。教室内の窓ガラスが割れた際も、速やかに処置し授業に影響が出ないように対応できた。</p> <p>【取組内容】について(成果と課題)</p> <p>①保護者メールや学校HPによる情報発信を行ったため、学校徴収金の徴収計画や学校給食費の徴収日程について、保護者からの問い合わせは例年より減少した。</p> <p>②点検では気付けない破損や、突発的に発生した破損に関しては、教職員間の情報共有が重要であると感じた。</p>	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について(改善点と具体的方策)</p> <p>○給食費口座の変更ができることを知らない保護者もいたため、徴収日程や締切りの連絡だけでなく、各種手続きの案内も行えると感じた。</p> <p>○校舎保全の予算の関係もあるので、今年度中に修繕できなかった箇所があるので、つけ計画的に執行していきたい。また、突発的に修繕が必要になった場合も、生徒の安全を第一に早急に取り組むようにしたい。</p>	

(6) 1 学年

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

新入生は、始業時間に遅れず登校し、落ち着いて学習に取り組む態度をもってスタートした。基礎的な学力が定着するように、朝学習・GKP テストを始め、学年全体で取り組んでいきたい。

「よりよい人間関係を作る」を目標に、からかい・嫌がらせ・いじめを許さない学年集団をつくっていきたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会 (学校・家庭・地域) の実現】

④ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

① 全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の正答率 8 割以上の生徒の割合を、平成 29 年度からの 4 年間で全国平均以上にする。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>② 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 今年度度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を65%以上にする (施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 今年度の中学校チャレンジテストにおける校内平均が、大阪市の平均を超えるように、学力の向上に取り組む。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p>	B

年度目標の達成状況や取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 朝学習・GKPテストを実施し、学力の向上を図る。 (学力UPベース事業)</p> <hr/> <p>指標 朝学習を週3回、GKPテストを5月から実施する。基礎学力の向上を図る取組を行う。</p>	B

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析

【年度目標】について（達成状況）

○学校のルールを守っているに当てはまる、やや当てはまると答えた生徒は 69% で、学校と家庭・地域との連携については、学校はホームページの発信を良くしていると答えた保護者は 94%であった。

チャレンジテストの校内平均は、残念ながら大阪市の平均を超えなかった。

【取組内容】について（成果と課題）

① 5教科の朝学習を週3回行い、数学のGKPテストは5月からスタートし、9回実施。毎回合格点に達するまで再テストを繰り返し、受検者合格に努めている。しかし、15%程度の生徒に基礎学力の定着が認められない。

今後も継続的なGKPテストの実施と、指導方法の工夫に努めていかなければならない。

次年度への改善点

【目標設定】について（改善点と具体的方策）

○学習面については、書字の苦手な生徒に対しての課題の出し方を工夫し、継続して学習する姿勢や達成感を実感させ、学力向上とともに、自尊感情を持たせるような働きかけが必要である。

○学校評価アンケートで、学校生活は楽しい（当てはまる、やや当てはまる）と答えた生徒は 90%である。今後とも生徒・保護者との信頼関係を密にし、生徒が安心して充実した学校生活を送れるよう日々の指導に努める。

(7) 2 学年

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

生活指導面の問題は少なく、学年全体として落ち着いて授業に向かう姿勢が見られる。しかし、家庭学習の習慣が身につけていない生徒が多く、学習課題の提出率が低い。未提出者への声かけやそれに対するペナルティーなどを実施するなど対策を練る必要がある。

長欠生や休みがちな生徒が数名おり、家庭との連絡を随時行っている。今後、専門機関との連携を効果的に図るなど、さらなる対策を講じる必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 29 年度～32 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年 100%にする。

(施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)

- ④ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ② ①平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における数学の活用に関する問題の無解答率を平成 28 年度より 5 ポイント減少させる。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- ③ 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、平成 28 年度より減少させる。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- ④ 平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における合計得点を、平成 28 年度より 5 ポイント向上させる。

(施策 7 健康や体力における保持増進する力の育成)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>② 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 今年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>○ 今年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を、前年度より減少させる。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>○ 今年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を65%以上にする。 (施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>③ 今年度の中学校チャレンジテストにおける正答率7割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 今年度の全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の正答率8割以上の生徒の割合を全国平均にする。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>○ 今年度の全国学力・学習状況調査における「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1時間未満」と答える生徒の割合を、前年度より減少させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p>	B

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実】</p> <p>学年の生徒集団が互いに自己を認め合い、いじめのない人間関係づくりを進めることができる取り組みを進める。</p> <p style="text-align: right;">(いじめ・問題行動に対応する制度の活用)</p>	B
<p>指標 認知したいじめに関して100%解消に向かうよう対応する。</p>	
<p>取組内容②【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>学力向上プロジェクト(GKP)テストの平均正答率を昨年度より向上させる取り組みを進める。</p> <p style="text-align: right;">(家庭教育や子育ての情報提供や学習支援)</p>	A
<p>指標 家庭学習プリントやGKPテストを月1回以上実施する。</p>	
<p>-----</p>	
<p>-----</p>	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】 について (達成状況)</p> <p>○学校で認知したいじめについて、100%解消に向けて対応できている。</p> <p>○不登校生の割合は減少にはいたっていないが、取り組みは続けている。</p> <p>○家庭・地域との連携については、アンケートで「HPで発信している」と回答した保護者が93%いた。</p> <p>【取組内容】 について (成果と課題)</p> <p>①道徳の授業を通して、いじめ問題についての考えを深め、また、生徒による劇を学年集会で発表する取り組みも行った。</p> <p>②合格基準を昨年度よりも上げてGKPテストを実施した。不合格者に2～3回再テストを行い、正答率が上がるようにした。</p>
次年度への改善点
<p>【目標設定】 について (改善点と具体的方策)</p> <p>○長欠生や休みがち(怠学傾向)の生徒・家庭には専門機関との連携を視野に入れた対策を続けていく。</p> <p>○GKPテストの継続実施だけでなく、受験生の自覚ある行動を早めに促し、家庭学習の定着、自学自習の態度の育成に努めたい。</p> <p>○最高の締めくくりとして卒業式を迎えるために、学年の連帯感をさらに高め、リーダーの育成に努める。</p>

(8) 3 学年

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

新年度開始とともに、最高学年という自覚が芽生えた生徒も多く、授業を大切に
する姿勢で臨んでいる。また、行事に対する積極性も向上したように感じられ
る。しかし、一方では学校のルールを守れなかったり、遅刻が改善しない生徒も
いる。進路獲得に向けて生活環境を整え、学習に粘り強く取り組む姿勢を指導し
ていきたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会 (学校・家庭・地域) の実現】

- ④ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密
にとっている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の正答率 8 割以上の生徒の
割合を、平成 29 年度からの 4 年間で全国平均以上にする。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>② 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 平成29年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を65%以上にする。 (施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>② 今年度の中学校チャレンジテストにおける正答率3割以下の生徒を同一の母集団で比較し、前年度より2ポイント減少させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 平成29年度のチャレンジテストにおける正答率3割以下の生徒の割合を昨年度より3ポイント減少させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p>	B

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 基礎学力の定着をめざし、自学自習に取り組む。 (教育活動のための時間の確保)</p> <p>指標 1週間につき3回の朝学習の時間を利用し、基礎学力の定着、確認を図る。</p>	B
<p>取組内容②【施策2 道徳心、社会性の育成】 3年間通して取り組んできた班活動によるリーダーの育成を継続して行う。 (人権を尊重する教育の推進)</p> <p>指標 係活動、行事、学習などの取り組みを班で活動する。また、人権に関する集中実践を年間3回実施、道徳の授業を学年の教員8名により実施し、校内公開授業にも取り組む。</p>	B

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について（達成状況） ○「学校の決まり・規則を守っていますか」の項目は目標通り80%に達し、「学校は情報公開をよく行っている。」と答える保護者の割合は74%に達し、目標を上回ることができた。</p> <p>【取組内容】について（成果と課題） ①朝学習、単元別の取り組み、GKPテストなど、基礎学力の定着を図る取り組みをおこなった。チャレンジテストの本校平均点と大阪府平均点との差を2年時より縮めることができた。しかし、昨年度の3年生との比較では3ポイント縮める目標に達することはできなかった。 ②一貫した班活動での取り組みにより、自分たちで支え合い、学び合う姿勢につながり、学校評価アンケートで「人を思いやる心が育っている」に肯定的に答えた生徒が80%近くに上ることに表れている。</p>
次年度への改善点
<p>【目標設定】について（改善点と具体的方策） ○各教科と連携をとりながら朝の学習や学習習慣の定着を図りたい。語彙力や文の読み取り、考える力を伸ばすためにも読書習慣をつける方策を探りたい。 ○集会や行事、日々の係活動や委員会などを通じ、学年、学級集団の中でリーダー的な役割を果たせる生徒の育成に努める。</p>

(9) 国語科

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

基礎学力の向上を目指して、きめ細かい授業展開や習熟度別授業を実施する中で、校内における学習態度や学習意欲は向上している。国語の更なる学力向上を目指すためには、家庭学習や読書の習慣をしっかりと身に付けさせる必要がある。しかし、家庭学習の時間が乏しく、読書の習慣が身につけていない生徒の割合が多く、国語の学力向上を目指す上での課題となっている。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ③ 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。

(施策 2 道徳心・社会性の育成)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ③ 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、平成 28 年度より減少させる。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>② 平成 29 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 80 パーセント以上にする。 (施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。 (施策 2 道徳心・社会性の育成)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。 (施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している(どちらかといえばしている)」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。 (施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組み)</p>	B

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策3 道徳心・社会性の育成】 本の読後感想を紹介し合う時間を作る。 (学校図書館の活性化)</p>	B
<p>指標 読後感想を書く・読む、話す・聞く時間を各学年で年3回以上作る。</p>	
<p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 単元毎の復習課題を与え、家庭学習をさせる。 (放課後を活用した学習機会の支援)</p>	B
<p>指標 課題提出の割合を80パーセント以上とする。</p>	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について（達成状況） ○授業の規律は良好に保たれている。チャレンジテストについては、総じてあまり変化は見られない。</p> <p>【取組内容】について（成果と課題） ① 読書ノートを活用したり、ブックトークを聞かせたりすることによって、読書への関心を持たせることはできたが、多くの生徒へ広げるところまでには至っていない。 ②学級担任の協力も得ながら、課題提出80%の目標をほぼ達成した。</p>
次年度への改善点
<p>【目標設定】について（改善点と具体的方策） ○日常的に家庭学習に取り組むよう、課題を分割し、提出期限を短く設定するなど、課題の与え方に工夫をする。 ○学級文庫や学校図書館から様々なジャンルの本を提供することによって、ジャンルの選択の幅を広げさせ、読書意欲を高める。</p>

(10) 社会科

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

社会科への好き嫌いが意欲・関心の差、さらにはテストの点数の差につながっている。特に、普段使わない言葉であったり、一人でも意欲・関心を持ち、知識を応用し、自ら考える力を身に着けさせたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

⑤ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

③ 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、平成 28 年度より減少させる。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>② 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 今年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p>	B

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 小テストを継続して実施し、基礎事項の定着をはかる。 (全市共通テストの導入)</p>	A
<p>指標 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より2ポイント向上させる。</p>	
<p>取組内容②【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 時事問題に触れることで、世界で起きていることに関心を持ち、自ら考える力を養う。 (ICTを活用した教育の推進)</p>	B
<p>指標 ICT機器を使用した授業を年間2回実施する。</p>	
<p>取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 定着した知識を活用し、自らの意見を「書く」「発表する」力を養い、また、相手の意見を聞く態度を養う。 (「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進)</p>	C
<p>指標 グループワークを年間2回実施する。</p>	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について（達成状況）</p> <p>○ 今年度も社会という教科の好き嫌いが点数の差につながっていると感じた。しかし、今年度はICTを使用して映像をみせた授業では、生徒の姿勢に前向きな変化をみられた。 平成29年度の2年生のチャレンジテストにおいて、前年度より向上した。</p> <p>【取組内容】について（成果と課題）</p> <p>① 小テストは地理分野と公民分野において実施出来た。特に3年生は年間を通して、復習も兼ねて実施することで良い振り返りになっていた。 平成29年度の2年生のチャレンジテストにおいては前年度より3, 5ポイント向上させることができた</p> <p>② ICT機器を使用した授業は年2回以上実施出来た。しかし、映像を見せることが中心であったため、それ以外での利用の工夫が必要だと思う。</p> <p>③ グループワークは実施出来なかった。しかし、発問に答えるという形での発表には積極的な生徒が増えてきた。</p>

次年度への改善点

【目標設定】について（改善点と具体的方策）

- 基礎的な知識の定着のための小テストはやはり有効であると感じた。小テストを実施することで、定期テストへの意欲にもつながるため、出来るだけ、どの学年も年間を通して小テストを実施していきたい。
- 生徒の興味、関心を引き出すために授業の導入として、また、理解を深めるために復習として映像を見せることは有効的な手段であると感じた。しかし、毎回の授業に取り入れることは時間的に厳しいため、その点に関する工夫が必要である。
- 教科書を調べると答えることが出来る発問に対して発表する生徒は増加してきているが、自らの考えや気持ちを自由に述べることは難しいと感じている生徒が多い。この点を解消するために、今年度実施出来なかったグループワークを取り入れ、まずは少人数の中での発表で慣れさせていきたい。

1

(1 1) 数学科

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・昨年度は・1 学期は 3 年生、2 学期は 1 年生、3 学期は 2 年生で習熟度別授業や T. T. での授業を行い、授業の定着を図っている。本年度も、学年、学級の状況に応じて、習熟度別授業や T. T. 授業を実施していく。
- ・定期的に問題集から宿題を出し、家庭での自主学習を促している。毎回宿題をきっちり行っている生徒は自主学習の習慣がついてきたと思うが、1～2 割ほど、できていない生徒がいるので、声掛けを行い、宿題をする習慣をつけさせていく。
- ・数学検定を年 2 回実施し、過去問を提示したり、図書館で学習会を開いたりした。しかし、全員合格とまではいかなかった。数学検定の参加人数が 6～8 名と少ないので、告知をして参加者を増やしていきたい。そして、合格できるように導いていく。
- ・ICT を活用した授業ができるようにしていきたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会 (学校・家庭・地域) の実現】

- ⑤ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ② 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における数学の活用に関する問題の無解答率を平成 28 年度より 5 ポイント減少させる。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>② 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと） (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p>	C

年度目標の達成状況や取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>各単元で、習熟度別授業やT・Tを活用した授業を行う。 (「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進)</p> <p>指標 アクティブ・ラーニングでの授業に取り組む。</p>	C
<p>取組内容②【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>ペアワークやグループワークを活用した授業を行う。 (ICTを活用した教育の推進)</p> <p>指標 適材適所を見極めながら、タブレット端末を使った授業を行う。</p>	C

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析

【年度目標】について（達成状況）

- 学校評価アンケートの「学校のルールが守られている」という項目において、82%の生徒が『あてはまる・ややあてはまる』と回答している。
- 学年によってばらつきがあるが、トータルするとよくなっている。

【取組内容】について（成果と課題）

- ①T.Tでの授業を行ってきたが、『主体的・対話的で深い学び』までは到達していない。学習意欲を高めていきたい。
- ②タブレット端末を使った授業は行えていない。研修会を通して、どのように使えるか考えていかなければならない。

次年度への改善点

【目標設定】について（改善点と具体的方策）

- 学習意欲を高めるために、習熟度別授業やT.Tでの授業をしっかりととりいれていきたい。また、タブレット端末を使いこなせるように努力していきたい。

(12) 理科

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

実験、観察については、興味・関心が高く、意欲的に取り組んでいる。昨年度は、授業時間の10%以上を理科室での生徒実験の時間にあてはめた。

実験の技能や計算力、科学的思考力、知識理解の定着率は、生徒間の差が大きい。昨年度もガスバーナーの実技検査や、圧力の計算で、事前に掛け算や割り算の計算問題を練習させたりしたが、期間を置いた定着率はよくなかったようである。一方、昨年度は、学年所属の理科教員がいない2年については、1年所属教員が理科の第一分野を、2年所属教員が第二

分野を受け持っていた。そのため、1週当たりの時間数が0～2時間で授業の間隔が、空いてしまうことが多くあった。

また、本校の生徒の自然体験は少なく、生徒に防災的な観点も含めた地域の理解を深めて、本物の自然に触れさせるため、ICTによるバーチャルな体験だけでなく、実物教材を可能な限り取り入れていきたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

⑤ 平成32年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を80%以上にする。

(施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

③ 平成33年度の全国学力・学習状況調査における「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1時間未満」と答える生徒の割合を、平成28年度より減少させる。

(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>② 平成 29 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 80 パーセント以上にする。 (施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。 (施策 2 道徳心・社会性の育成)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。 (施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。 (施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組み)</p>	B

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 生徒の自主的・総合的な理解を深める夏休みの理科の自由研究の取り組みを継続して行い、昨年度実施できなかった科学検定を今年度は実施する。 (理科教育の充実)</p> <p>指標 知識理解の定着をはかるため、小テストや課題を定期的実施していく。</p>	B
<p>取組内容②【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 普通教室や理科室において、デジタル教科書や書画カメラ、タブレット等の ICT 機器を活用して、生徒が主体的に学習し、生徒間の意見交流（アクティブラーニング）ができるような授業に取り組む。 (ICTを活用した教育の推進)</p> <p>指標 理科室の使用率（平成28年度の約10%（115回使用））をさらに高め、生徒実験の回数をできるだけ確保する。</p>	B

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について（達成状況）</p> <p>○ チャレンジテストアップの得点力アップのため、3年2年においては事前に練習問題を実施するなどの対策を実施した。夏休みの自由研究の課題は本年度も実施したが、科学検定は実施しなかった。</p> <p>【取組内容】について（成果と課題）</p> <p>①東書ライブラリーを活用して、小テストや課題テストを單元ごとに実施し、知識や知識理解の定着をはかった。 授業用パソコン、教科のパソコンを使用して、実験や事象の説明に効果的に使用することができた。しかし、生徒同士の発表や意見交換まで達成することはできなかった。 理科室の使用率は10%（のべ118回）と昨年（115回）とほぼ同等であった。</p>
次年度への改善点
<p>【目設定】について（改善点と具体的方策）</p> <p>○ タブレット端末を授業活用したり、デジタル教科書の使用頻度を高めるため、他校視察等の研修に積極的に参加している。</p> <p>○ 実験観察をの準備の効率化をはかるため、理科室のさらなる整備をすすめていきたい。</p>

(13) 英語科

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

英語技能検定を年間 3 回実施し、校区内の小学生に呼びかけて、同時に受検する取り組みを行ってきた。今後の課題としては、意欲的で活動的な生徒が多いが、一方で、基礎・基本の定着に欠ける生徒の割合も多い。TT による分割授業の実施を増やし、学力の向上を図っていくことが、喫緊の課題である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会 (学校・家庭・地域) の実現】

- ⑤ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ③ 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、平成 28 年度より減少させる。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（中学校）</p> <p>② 今年度の中学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 今年度の全国学力・学習状況調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。(標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと) (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 今年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p>	B

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 単元に適した習熟度学習の形を考え、内容を精選し、実施する。 (学校力UP ベース事業 (習熟度別少人数授業など個に応じた指導の充実))</p> <p>指標 新しい単元の導入や、定期テスト前などに集中して習熟度別学習に取り組む。</p>	B
<p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 中学校チャレンジテストにおける標準化得点を前年度より向上させる。 (全市共通テストの導入)</p> <p>指標 家庭学習の課題の精選や、小テストや単元ごとの確認テストなどの実施をする。</p>	C
<p>取組内容③【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 英検受験人数を昨年度より増やす。 (英語教育の強化)</p> <p>指標 「学校元気アップ本部事業」と連携し、放課後などの補充学習の機会を継続して設け、受検への意識を高めさせる。</p>	A

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について (達成状況)</p> <p>○ 定期テスト前を中心に、少人数授業を行い、集中して学力向上のために取り組んだ。また、学校元気アップとの連携で、放課後学習会などに毎回20人前後が参加している。</p> <p>【取組内容】について (成果と課題)</p> <p>① 暗記や、プレゼンテーションの課題など人前で発表することに慣れさせ、自己表現させることができた。C-net との TT では、違う文化などにも触れさせることができ、聴きとったり、積極的に発表する態度が見られた。</p> <p>② マイナス3～5ポイント前後であるので、向上させていきたい。</p> <p>③ 英検受験人数は着実に増えてきた。その結果、2級、準2級の上級合格者も増加した。また、小中連携による「小学生のための英検講習会」の実施により、小学生の受験人数と合格者も増えてきた。</p>
次年度への改善点
<p>【目標設定】について (改善点と具体的方策)</p> <p>自主的な家庭学習の定着をさせたい。基礎・基本の定着をさせるための反復学習の徹底をしていく。また、英検受験人数を増やすため、「学校元気アップ本部事業」と連携し、小学校との連携も強める。講習会の内容や、小・中学生向けの教材の改善をしていきたい。</p>

(14) 音楽科

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

基礎的な発声、器楽表現力がついてきた。実技テストとともに行事を発表の機会とし、表現力を高めてきた。作品の背景を理解することで一層深い表現に結び付け、鑑賞できる力を高めることが課題である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ⑤ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ③ 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、平成 28 年度より減少させる。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>②今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○今年度の全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について「あてはまる（どちらか言えばあてはまる）」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。 (施策2 道徳心・社会性の育成)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>①今年度校内調査における「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p>	B

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 道徳心、社会性の育成】</p> <p>歌唱、器楽表現することを通し、他者とともに協力することや、自分の役割を果たすことを学ぶ。</p> <p style="text-align: right;">(音楽・吹奏楽に親しむ機会の創出)</p>	B
<p>指標 実技テストを年間5回実施し、生徒が表現する機会を多くつくる。また、集団の中で自分の考えを伝えることや、和楽器の実習、諸外国の文化を鑑賞し、多様な文化への理解を深める。そして、行事と連動して学年合唱の取り組みの機会をつくり、集団育成の場とする。</p>	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】 について（達成状況）</p> <p>○ 授業規律を守る意識、人の発言を聞く力などがついてきた。合唱の取り組みでは、自分の役割を果たすことと、他の人を尊重して作品をつくり上げることが意識できるようになっており、グループや学級をまとめるリーダーの育成にもつながった。</p> <p>【取組内容】 について（成果と課題）</p> <p>①年5回の実技テストは計画通り行うことができ、合唱のみならず、リコーダー、ギター、箏の実習、多様な文化への理解を深めるための取り組みを進めた。また、簡単な創作にも取り組むことができた。</p>	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】 について（改善点と具体的方策）</p> <p>○タブレットを利用した合唱指導、創作作品の発表などに取り組みたい。</p>	

(15) 美術科

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

意欲的に創造活動に取り組むことができている。授業から生まれた作品を飾ることや、学校行事に関連して制作を進めることなど、美術活動に興味関心を持たせながら、表現力を高めてきた。形、色彩、構図による効果を自分の意図に応じて表現を工夫することが今後の課題であり、また、作品鑑賞を通し個々の価値基準の生成も図りたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

⑤ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

③ 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、平成 28 年度より減少させる。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>② 平成29年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 今年度末の生徒アンケートにおける「係や当番の仕事をすすんでしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。 (施策2 道徳心・社会性の育成)</p> <p>○ 今年度末の生徒アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」と答える生徒の割合を前年度より向上させる (施策2 道徳心・社会性の育成)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>④ 平成29年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 今年度末の生徒アンケートにおける「学校で学習したことから、いろいろ調べてみたくなる」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上)</p> <p>○ 今年度3学期における授業アンケートで「先生は個の状況に応じた支援をしてくれる」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上)</p>	B

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 対話型鑑賞や作品の比較鑑賞を班活動で行う。 （「主体的、対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）の推進）</p> <p>指標 作品の相互鑑賞や比較鑑賞を通し、生徒間で考えや思いについて対話の機会を増やす。</p>	A
<p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 環境保全のポスター制作を行わせる。 （環境を守る意識の醸成）</p> <p>指標 中学校美術科指導要領、A 表現（2）に準拠し、「伝える、使う」などの目的や機能を考える活動から、環境保全について視点をもたせる。</p>	B
<p>取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 資料収集に図書館を利用させる。 （学校図書館の活性化）</p> <p>指標 読書感想画の募集をし、読書への興味、意欲を高める。また、作品づくりの主題実現のための資料収集に図書館を利用させる。</p>	B

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について（達成状況）</p> <p>○各課題において、生徒個々に主題を生み出させることができ、前年度よりも充実したカリキュラム編成が出来ている。実習課題の導入とまとめて鑑賞を行うことにより、「作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取る。」「造形的な良さや美しさを感じ取り、見方を広める。」「自分の思いや考えを話し合う。」などの能力の育成ができ、学習規律の確保や他者を思いやる気持ちの育成などにもつながった。</p> <p>【取組内容】について（成果と課題）</p> <p>①作品づくりの前後で鑑賞を行い、課題理解と主題生成をしやすくしたことで作品を通じたグループワークを深めることができ、ひいては役割分担や授業規律の意識を持たせることにつながった。 しかし、グループワークにまだ慣れていない子がまだまだ見受けられるので、次年度では作品を通じて考えや思いをもって話し合うなど、目的を明確にした深い鑑賞になるように取り組みたい。</p> <p>②環境保全について視点を持たせることはできたが、「西中学校を良くする」という題材設定で取り組んだ為、環境保全の観点とは少し違う作品となった。</p>

③作品づくりの資料収集に図書館を利用させ、読書感想画コンクールに出品した。次年度では「しおり」の制作を予定しているので、より図書館に足を運ぶ機会が増えるようにしたい。

次年度への改善点

【目標設定】について（改善点と具体的方策）

○新学習指導要領ではどの観点においても「主題を生み出し」の文言が明記されている。課題理解から作りたい作品を構想させる事を大切にし、教科指導の質を高めるとともに、それが規律の確保、係や役割の意識、他者を思いやる意識につながるようにしたい。

(16) 保健体育科

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

例年、全国体力・運動能力調査の結果が全国平均を下回っている。特に、男子の体力・運動能力の低下傾向が強くみられる。また、運動習慣の必要性や生涯スポーツについての理解も低い。心もからだも急激に成長する大切な時期に、基礎的な知識と技能を学ばせ、実社会や生活で役立たせることができるようにしたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ⑤ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ④ 平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における合計得点を、平成 28 年度より 5 ポイント向上させる。

(施策 7 健康や体力における保持増進する力の育成)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>② 平成 29 年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を 80%以上にする。 (施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 80%以上にする。 (施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>⑤ 平成 29 年度の全国体力・運動能力習慣調査において、特に課題である立ち幅跳びの平均の記録を、前年度より 2 ポイント向上させる。 (施策 7 健康や体力における保持増進する力の育成)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 平成 29 年度の全国体力・運動能力習慣調査における合計得点を、前年度より 3 ポイント向上させる。 (施策 7 健康や体力における保持増進する力の育成)</p>	B

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>体育における集団行動や班別行動等を通して、規律を守ることの意味や仲間と協力することの大切さを学ばせる。</p> <p style="text-align: right;">(道徳教育の推進)</p>	B
<p>指標 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする</p>	
<p>取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>ランニングやラジオ体操等の補強運動を毎時間行うことで、全員に最低限の運動量を確保する。また、実技指導や保健授業を通して、運動の意義や必要性について指導する。</p> <p style="text-align: right;">(子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実)</p>	B
<p>指標 平成29年度の全国体力・運動能力習慣調査における合計得点を、前年度より3ポイント向上させる。</p>	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について (達成状況)</p> <p>○体育における集団行動を、集会や各行事等、あらゆる学校生活の場面を通し徹底して行わせることで、決まりや規律を守ることが習慣化させるよう取り組んだ。その結果、決まりや規律を守る意識は定着してきている。</p> <p>運動能力調査についても、数字だけ見れば前年度を上回り目標は達成している。</p> <p>【取組内容】について (成果と課題)</p> <p>①アンケート結果にも見られる通り、学校の決まりや規律を守って生活している。校外での問題行動や警察の補導歴もほとんど上がってこない状況が続いている。この状況に安心することなく、継続して指導にあたっていく。</p> <p>②運動能力調査のポイントは前年度を上回り、女子の平均は大阪市の平均を0.02P上回った。しかし、男子の平均は全国から3.23P、大阪市の平均からは2.12P下回っている。また、運動の習慣や意味についての項目で低い値となっている点も課題である。</p>
次年度への改善点
<p>【目標設定】について (改善点と具体的方策)</p> <p>○規律を求める指導と、運動やスポーツの楽しみや意義についての指導の両立が課題である。また、ICT機器の活用も取り入れていけるよう工夫・研究していきたい。運動能力の向上については、体育だけでなく各部活動でも基礎体力向上にも狙いを持って取り組んでもらえるよう働きかけを行っていこうと思う。</p>

(17) 技術・家庭科

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

パソコン・作品制作・調理実習などの作業学習には関心が高く、意欲的に取り組む生徒が多い。基礎的・基本的な知識の定着を計る必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ② 毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。

(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ⑤ 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を毎年、前年度より減少させ、平成 33 年度調査において 7%以下にする。

(施策7 健康や体力における保持増進する力の育成)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>② 今年度の校内調査における「学力のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 今年度の校内調査における「学力のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>④ 今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上)</p>	B

年度目標の達成状況や取組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 少人数での授業を実施し、個に応じた指導の充実を図る。 (教育活動のための時間の確保)</p> <p>指標 個に応じた指導の充実を図り、教科に対する理解度の向上を図る。</p>	B

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析

【年度目標】について（達成状況）

○学校評価アンケートの「学校のルールが守られている」という項目において、82%の生徒が「あてはまる・ややあてはまる」と回答している。

【取組内容】について（成果と課題）

○少人数制の授業を取り入れることで個々へのきめ細かい指導ができています。

次年度への改善点

【目標設定】について（改善点と具体的方策）

○作業を伴う授業を行う際、支援が必要な生徒への取り組みを工夫する。

(18) 特別支援教育委員会

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

障がいのある生徒の、学びへの意欲はみられるが、なかなか定着していない。通常学級内でのサポートも含め、個のニーズに応じた多様な教育活動を展開し、進路を見据えた基礎学力をつけていくことが必要である。そのためにも、特別支援学級の担任のほかに、教員と全校生徒を含んだ「学校全体で」、特別支援教育に取り組まなければならない。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ⑤ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ③ 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、平成 28 年度より減少させる。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>② 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 平成29年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を65%以上にする。 (施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>④ 今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 平成29年度の全国学力・学習状況調査における「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1時間未満」と答える生徒の割合を、前年度より減少させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上取組)</p>	B

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
取組内容①【施策2 道徳心社会性の向上】 インクルーシブ教育の充実と推進を図る。 (インクルーシブ教育の充実と推進)	B
指標 日々の生活や行事などの中でお互いに協力し合ったり支えあったりする経験を通して他者を尊重する気持ちを育てる。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 個々のニーズに合った教育の推進を図る。 (教育活動のための時間の確保)	B
指標 個々の学習課題を明確にし、目標を持って学習する姿勢を育てる	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について（達成状況）</p> <p>○全ての生徒が安心して成長できる安全な社会を目指して取り組んできた。人間関係の構築が難しかったり、不安が大きい生徒もいる中、その目標が十分に達成できたとまだ言えない。しかし、集団での活動に参加する機会を保障しながら、ひとりひとりの成長を促した。学力の向上という点では、個々にその都度の目標を設定し、マンツーマンの授業を多く取り入れ、メリハリのある授業ができた。その結果、集中力の向上と、ある程度の学習の定着が見られた。</p> <p>【取組内容】について（成果と課題）</p> <p>① 生徒は学校生活の中で、1つのものを順番に譲り合ったり、お互いの体調を気遣ったりすることができた。キャリア教育センターでの実習においては、ルールを守り、係の仕事を時間以内にこなし、また声掛けして手伝う場面も見られた。その他の行事においてもお互いが協力し合い、他者を尊重する「思いやりの心」を育むことができた。</p> <p>② 学習が苦手な生徒が多いが、生徒の状況に応じて柔軟に対応し、「今日はこの5つの単語を覚える」など具体的な目標を本人と確認して設定した。生徒によって理解度や進度は違うが、目標をクリアすることで自信をつけさせた。それにより、最初はじっと座っていることが難しかった生徒も、授業や課題に向き合うことができるようになるなど、学習意欲の向上が見られた。</p>
次年度への改善点
<p>【目標設定】について（改善点と具体的方策）</p> <p>○生徒が自信をつけることと、社会性を育むことが大切だと感じた。段階的な1つ1つの目標を達成する経験をさせる。また褒められた経験が少ない生徒が多いので、褒めることを徹底し、それを積み重ねていくことで「生徒の自信」に繋げていきたい。そして、教室になかなか入りづらい生徒については、それぞれがクラスの中で安心して過ごせるように、自分の思いの伝え方や友達とのかかわり方を学ぶ機会を作りたい。</p>

(19) 人権・道徳委員会

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

学校全体としては、生徒は落ち着いた状態で学校生活を送っている。
平和学習については、8月の全校平和登校日前後の取り組みが充実しつつある。
生徒は「いじめ・差別はいけない」「戦争を憎み、平和を愛する」という概念は概ねもっているように思われる。

2学期以降の各学年の人権学習の内容や取り組みの時間の再検討が必要と思われる。特に、野宿生活を余儀なくされている人たちの問題、LGBTについて、など今日的人権課題についても研鑽を積まなくてはならない。

そのためにも、教職員自身が、地域研修等の人権研修に積極的に参加し学習する必要があると思われる。

道徳については、教科化に伴い、評価の方法について具体的な形を早急に検討すべきである。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

① 平成 29 年度～32 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年 100%にする。

(施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)

② 毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。

(施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)

④ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>② 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 今年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>○ 平成29年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を65%以上にする。 (施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>④ 今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p>	B

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>道徳の教科化に伴い、教員相互の授業研究に取り組み、評価の方法について具体的な方向性を検討する。</p> <p style="text-align: right;">(道徳教育の推進)</p>	B
<p>指標 各学年全員の教師が道徳の授業を行う。</p>	
<p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>地域研修等の人権研修に、積極的に参加し、学習を行い、全校的な取り組みを進める。</p> <p style="text-align: right;">(人権を尊重する教育の推進)</p>	B
<p>指標 全校での平和学習、各学年での人権学習の取り組みを深める。</p>	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について（達成状況）</p> <p>○各学年とも学校で認知した生徒間のトラブル・いじめについて、解消に向けて対応できている。</p> <p>生徒アンケートの学校のきまり・規則を守っていますかの質問については、82%が当てはまる（どちらかといえば当てはまる）と答えている。</p> <p>【取組内容】について（成果と課題）</p> <p>①各学年ともローテーションで全員が授業を行うことができた。授業参観・研究協議を行い、授業力向上の取り組みを行った。次年度は評価の方法を考えていきたい。</p> <p>②西区人権教育交流会・夏季地域研修については参加者の増加が認められた。しかし、今日的な人権課題についての教職員研修は不十分である。</p>
次年度への改善点
<p>【目標設定】について（改善点と具体的方策）</p> <p>○2学期以降の各学年の人権学習については、深まった取り組みができていない。ふくし読本やハンセン病等の副読本も配るだけに終わってしまっている。次年度は総合・学活の計画の中に各学年3時間以上の人権教育の取り組みを位置づけ、実践が必要である。</p>

(20) 給食委員会

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

昨年度(平成28年9月2日)より、全市に先がけて本校では親子給食を開始した。開始後、一ヶ月ほどでようやく運搬、配膳等も軌道にのり、生徒も給食の準備、片づけ等もスムーズに行えるようになってきた。食育については、給食だよりを発行したり、給食カレンダーの掲示、お茶碗の日を設定・実施したりするなど、生徒の興味・関心に役立てることができた。

課題としては、残食率の高いご飯の残食を減らす工夫が必要である。また、さらに食育に関心をもたせるような取り組みをすすめていきたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校・家庭・地域)の実現】

⑤ 平成32年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を80%以上にする。

(施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

⑤ 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない(あまり食べていない)」と答えた生徒の割合を毎年、前年度より減少させ、平成33年度調査において7%以下にする。

(施策7 健康や体力における保持増進する力の育成)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（中学校）</p> <p>② 今年度の中学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 今年度末の生徒アンケートにおける「係や当番の仕事をすすんでしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を60%以上にする。 (施策2 道徳心・社会性の育成)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（中学校）</p> <p>④ 今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より向上させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を、前年度より減少させる。 (施策7 健康や体力における保持増進する力の育成)</p>	B

年度目標の達成状況や取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 給食のご飯の残食率の割合を20%以下にする。 (子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標 教職員で取り分けたり、声掛けをしたりする。また、残食についての現状を給食だよりで知らせて、呼び掛けたり、生徒にも積極的な活動を行わせていく。</p>	C

取組内容②【施策7 健康や体力を保持、増進する力の育成】 保健委員をリーダーとした食育の取り組みをする。 <p style="text-align: right;">(食育の推進)</p>	B
指標 生徒たちに食育についてできることを考えさせ、発表の機会をつくることで意識の向上を図る。	
取組内容③【施策7 健康や体力を保持、増進する力の育成】 保護者対象の試食会を開催する。 <p style="text-align: right;">(中学校給食の充実に向けた総合的な取組)</p>	A
指標 日程調整し、準備をして開催する。(年1回)	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について (達成状況)</p> <p>○ 係の仕事を積極的にし、ほぼ順調に準備から片づけまで進めることができた。</p> <p>【取組内容】について (成果と課題)</p> <p>① ご飯の残食率は40%～50%と、残念な結果になっている。クラスによっては、0%のところもある。</p> <p>② 初めての試食会で、保健委員が配膳員さんへのインタビューをもとに、給食に関する掲示物を作成し、展示した。文化発表会でも展示した。</p> <p>③ 試食会では、保護者に給食係の経験や生徒の給食の様子なども参観してもらった。食後にアンケートなどもしてもらい、無事に終了した。小学校栄養教諭さん作成の調理説明の写真、パン・米飯の大きさや量比べ、食器の違いの実物の展示もよいアクセントになりました。</p>
次年度への改善点
<p>【目標設定】について (改善点と具体的方策)</p> <p>○ 給食委員を新たに設置し、保健委員でしていた給食関係のとりくみを発展させていきたい。さらに食育活動をしていき、残食率なども減らしていきたい。</p>